# 令和7年度 第3回 鎌倉市下水道事業運営審議会

### 鎌倉市下水道BCPについて

令和7年(2025年)10月3日(金) 下水道経営課

#### 鎌倉市地域防災計画

適用範囲:市役所全体

鎌倉市都市整備部災害時対策計画

適用範囲:部内

#### 鎌倉市下水道BCP

適用範囲:下水道施設

### 緊急点検 ·調査

緊急措置

一次調査

応急復旧

二次調査· 本復旧

緊急段階: 概ね3日間 暫定機能確保段階:

概ね30日間

機能確保段階: 1年以上(場合により)

# 鎌倉市下水道BCP(業務継続計画)

- I 地震・津波編
- Ⅱ 水害編
- Ⅲ 大規模噴火降灰災害編
- IV 資料編

### 1 下水道BCPの趣旨と基本方針

### 趣旨

- ◆ 大規模な災害、事故、事件等で職員、庁舎、設備等に相当の被害を受けても、優先実施業務を中断させず、たとえ中断しても許容される時間内に復旧すること
- ◆ 災害時においてリソースの制約を受けた状態にあっても 機能を維持または早期回復すること
- ◆ 平時から災害に備えること

### 基本方針

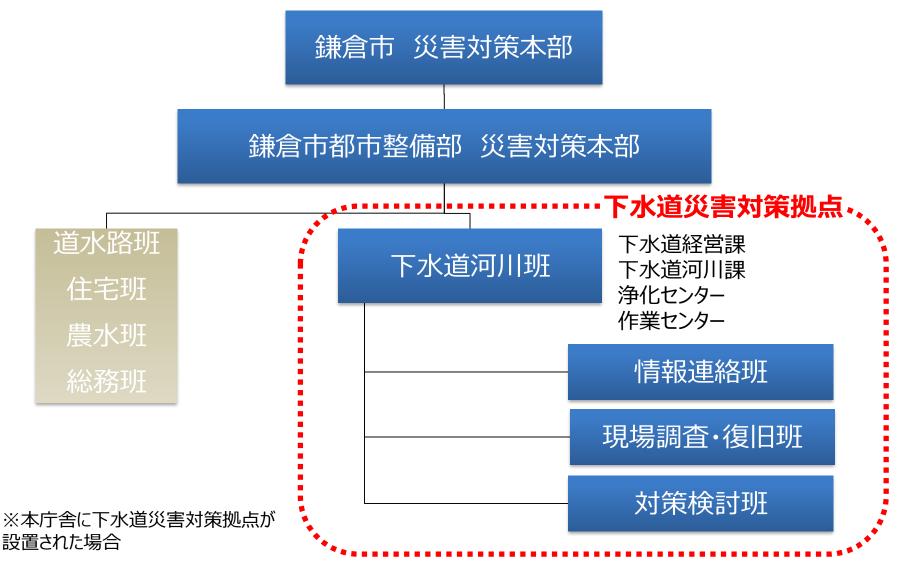
### 市民、職員、関係者の安全確保

災害発生時の業務の継続・早期復旧に あたっては、市民、職員およびその家族の 安全確保を第一優先とする。

### 下水道事業の責務遂行

市民生活や地域経済活動のために必要となる下水道が果たすべき重要な機能を優先的に回復する。

## 2 非常時対応の基礎的事項の整理



## 3 想定の根拠とした調査・分析・検討

> 地震規模等の設定と被害想定

| 被害想定の項目 |         | 大正型関東地震 | 南海トラフ巨大地震 |
|---------|---------|---------|-----------|
| マグニチュード |         | 8.2     | 9.0       |
| 建物被害(棟) | 全 壊     | 13,400  | 3,250     |
|         | 半 壊     | 12,800  | 1,520     |
| 火災被害(件) | 出 火     | 60      | 0         |
|         | 焼 失     | 7,850   | 0         |
| 人的被害(人) | 死者数     | 610     | 0         |
|         | 負傷者数    | 5,490   | 10以上      |
| 避難者数(人) | うち重傷者数  | 360     | _         |
|         | 1~3日目   | 97,280  | 14,210    |
|         | 1ヵ月     | 77,660  | 11,300    |
| 津波による被害 | 建物被害(軒) | 2,350   | 4,990     |
|         | 人的被害(人) | 1,920   | 800       |
| 下水道     | 機能支障(人) | 18,170  | 1,280     |

## 4 非常時対応計画

#### 発災直後

- •安否連絡
- •自動参集

#### 3~4時間

- •災害対応拠点の安全点検
- 下水道災害対策拠点立上げ

#### 6~12時間

- •データ類の保護
- ・災害対策本部等への初動連絡
- •関連行政部局との連絡調整
- •被害状況等の情報収集と情報発信

#### 1時間毎

• 不在職員等の安否確認

#### 必要に応じて実施

•支援要請

#### 状況に応じて実施

- •点検•調査
- •緊急措置•応急復旧

#### ~3日程度

- •緊急点検、緊急調査
- •汚水溢水等の緊急措置
- •支援要請及び受援体制の整備

#### ~10日程度

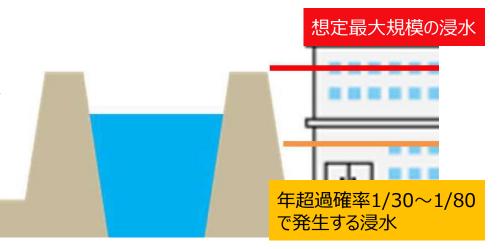
- •一次調査(処理場等の最低限の機能確保 及び人孔蓋を開けるなどして管きょを調査)
- •応急復旧(処理場、ポンプ場及び管きょ等の 仮設ポンプ及び仮設配管の設置)

# 鎌倉市下水道BCP(業務継続計画)

- I 地震·津波編
- Ⅱ 水害編
- Ⅲ 大規模噴火降灰災害編
- IV 資料編

## 1 水害編における山崎浄化センターの位置付け

- ▶基本的な考え方
  - ハード対策 年超過確率1/30~1/80の浸水
  - ソフト対策想定最大規模の浸水



▶ 山崎浄化センターの位置付け



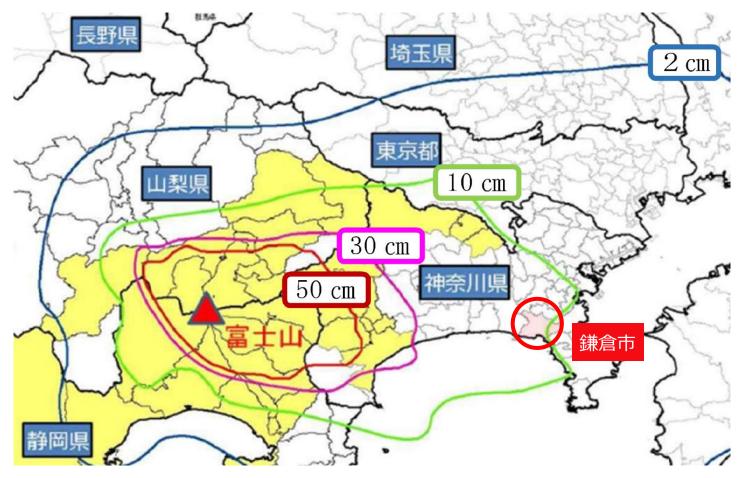


# 鎌倉市下水道BCP(業務継続計画)

- I 地震・津波編
- Ⅱ 水害編
- Ⅲ 大規模噴火降灰災害編
- IV 資料編

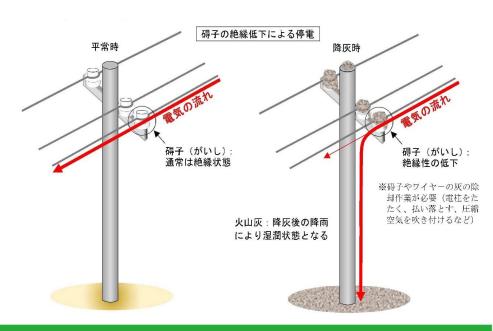
## 1 噴火の対象(災害の最大規模の想定)

### 富士山噴火における降灰



## 2 降灰の主な影響

- > 下水道
  - ・ 雨水管路の閉塞により、降雨時に溢水
  - 降灰の清掃のための水かけが排水施設へ影響
- > 電力
  - ・ 降灰後降雨時電柱への0.3cm以上で碍子の絶縁低下による停電
  - ・ 火力発電所吸気フィルタの交換頻度による電力低下
- > 健康被害
  - 火力灰が目や気管支に影響
- 上水道、道路、通信、 鉄道、物資、人の移動、 建物



3 降灰時及びその後の気象状況による臨機の対応

晴天時、雨天時、降灰継続中の降灰の変化

4 降灰へ至る事前情報の把握

気象庁から発表される噴火・降灰予報、情報の伝達

5 下水道施設の具体的な影響

処理場・ポンプ場・下水道管路への影響

6 体制及び連絡先等

地震・津波編と同様

7 勤務時間外における参集について

自動参集を前提としない

8 非常時対応計画

勤務時間内・外における情報収集及び時間経過ごとの確認事項、降灰対策

9 携行品に加え必要となる装備品等について

防塵マスク、ゴーグル、ヘッドライトの規格・個数及び土のう袋の使用方法

